

平成22年度 伊万里市立波多津東小学校 学校評価結果

|   |
|---|
| 1 学校教育目標  |
| 思いやりの心をもち、学ぼうとする意欲のあるたくましい児童の育成 ~キラ・ニコ・ドン・パツの子どもたち~ |

|  |
|--|
| 2 学校経営ビジョン   |
| (目指す学校像) ...学びのある学校, 安らぎのある学校, 規律のある学校, 地域と共に歩む学校<br>(目指す教師像) ...日々の授業を大切にできる教師, 子どもを理解し、ほめ・励ますことのできる教師, 子どもと共に学び、行動することのできる教師, 保護者や地域の方々から信頼される教師, 評価・育成システムや研修等により自らの資質を高める教師, 教育公務員としてのコンプライアンスの意識を保持する教師<br>(目指す児童像) ...「よく学び 心豊かに たくましく」...自ら考え進んで学ぶ子ども, 命を大切に思いやりのある子ども, 規律正しく健やかで体をきたえる子ども, ふるさとを愛する子ども |

|   |  |
|---|--|
| 3 本年度の重点目標  | 4 前年度の成果と課題  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特色ある学校づくり(ふれあい体験活動の取組みの推進, 家読と図書館教育の推進, 郷土学習の研究推進)</li> <li>○ 学力の向上(基礎基本の定着, 学習意欲の向上, 校内研修の推進)</li> <li>○ 豊かな心の育成(道徳実践力の育成, 人権・同和教育の徹底、自主性・自立性の育成, 教育相談の充実)</li> <li>○ 家庭・地域・関係機関との連携(家庭・育友会・地域との連携, 諸機関との連携)</li> <li>○ 健やかな体づくり(体位・体力の向上, 安全な生活態度の定着)</li> </ul> | <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的にどの項目においても「A」の評価をつけることができた。便り等を通して理解してもらい信頼される学校作りができています。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低学年学習・生活習慣の改善</li> <li>・ 心の教育の充実</li> </ul> |

共通評価項目      市共通評価項目      独自評価項目

| 5 総括表 |           |                                |  |  |   |   |
|-------|-----------|--------------------------------|--|--|---|---|
| 領域    | 評価項目      | 評価の観点<br>(具体的評価項目)             | 具体的目標  | 評価及びその理由   | 具体的方策   | 成果と課題   |
| 学校運営  | 学校経営方針    | ・教育目標・経営ビジョン・本年度の重点目標の周知       | 教職員、児童、保護者、地区民に周知する。<br>認知度を85%以上にする。  | B<br>周知度は約82%で前回より少し減少したが、地区民の全世帯への学校だよりも送付し、学校の様子も知らせることができた。                       | 学校便りは地区住民にも配布し、育友会総会・役員会及び懇談会等で具体的な説明を行う。<br>職員や児童に学校教育目標につながるような話をする。  | 特に「情報発信の周知」については保護者アンケートでは95%を達成しており、「参観の機会を設け適切である」の評価も91%を達成している。<br>児童への目指す児童像に関する話については全校朝会や全校児童が集まる機会に十分に指導ができた。<br>学校の教育目標や目指す児童像について説明を行い、理解度をさらに高める必要がある。 |
|       | 開かれた学校づくり | ・開かれた学校づくりの推進(三世代の顔が見え、つながる学校) | 授業参観、行事等への保護者や祖父母を含めた参加率を80%以上とする。<br>教育活動に地域人材を活用、延べ20人以上を目指す。  | A<br>両親だけでなく祖父母の参加もあり、参加率はいずれも80%を超えている。<br>一つの行事において地域人材の登用の呼びかけに20人以上の協力があり、達成できた。 | 保護者への学校及び学級便りや育友会の諸会議等を通して学校の情報発信を積極的に行う。<br>ホームページの定期的な更新を行う。<br>地域人材の登用により、地域の方々の教育への関心を高める。                        | 参観・行事への保護者の参加への意識は93%と高く、協力への意識も高い。<br>「外部人材を迎える等の体験学習に力を入れている」では81%であるので地域人材に働きかけ拡がるような取り組みが必要である。<br>ホームページの更新については、定期的なものではきたが、更新の回数を増やしていきたい。                 |
|       | 教職員の資質向上  | ・プロの教師としてのレベルの高まり              | 教職員の授業力や学級経営力を高める。   | A<br>実践研究となる授業研究会ができなかった。<br>講師招聘による研修会の機会を多く設定し、理論研究ができ資質向上を図ることができた。               | 研究授業研修会を2回以上行い、スーパーチャーター等の助言を受ける。<br>講師招聘により授業力や学級経営力の向上を図る。  | 研究授業の前に講師による模範授業を通しての研修を行ったり、研究授業の前に提案授業をするなど全職員で臨む研究授業ができた。また、QUテストを活用しての学級集団作りの研修等を通して学級経営力を高めることができた。<br>特別支援教育などの研修も含め、年間10回講師招聘による研修会を行うことができた。              |
| 教育活動  | 学力向上      | ・基礎学力の定着を図る                    | 朝の特設時間において基礎基本の徹底に努める。<br>複式学級の指導方法の工夫改善を行う<br>校内研究を算数科とし、言語活動の充実を図る。                                    | B<br>基礎・基本の定着のための特設時間を設定して取り組むことができた。<br>漢字検定の結果については、平均して目標達成できた。基礎としてさらに定着させた。     | 朝の時間帯の読書・音読・計算タイムを通して基礎基本の定着を図る。<br>複式学級への対応を全校体制で臨み、個の学力向上を保障していく。<br>漢字検定で各学年の到達度85%を目指す。                           | 「学力向上のための授業や朝のみたけタイムの取り組み」の保護者評価は82%が良好な回答であり、前回より向上している。<br>漢字検定の結果は2回共に85%前後の達成度であり、安定した結果をだせている。今後、さらに高い達成率を目指す必要がある。  |
|       | 心の教育      | ・道徳の時間や人権・同和教育の充実              | 市作成の「命の教育指導資料集」等の「心の教育3点セット」の有効活用を行う。<br>年1回以上、全学級で保護者が参観する道徳授業を行う。<br>自尊心を向上させ、学校生活が楽しいと感じる児童80%以上を目指す。 | A<br>保護者参観の道徳の授業を全クラスで実施することができた。<br>保護者評価では、91%が心の教育に力を入れているとの回答があり、理解を得ることができている。  | 「伊万里っ子しぐさ」の中から重点指導項目を設定し、全校で指導にあたる。また、「伊万里市童謡歌集」を活用する。<br>道徳の授業やふれあい道徳を充実させる。<br>「いのちの教育」指導資料を活用した道徳の授業を年1回以上、全学級で行う。 | 「伊万里っ子しぐさ」の内容や童謡を毎朝放送したり、学級で取り組んだりすることができた。<br>保護者アンケートでは、81%が「子どもに豊かな心を育てるようにしている」という回答があり、ねらいが保護者に伝わっている。<br>職員全体での研修と協議のもと「心あったか集会」や「心の木」等、全校での取り組みを行うことができた。  |

|      |                  |                          |   |   |   |  |   |
|------|------------------|--------------------------|---|---|---|--|---|
| 教育活動 | 健康・体づくり          | ・望ましい生活習慣の形成             | 学校・家庭生活の現状と課題から健康・安全教育の推進に努める。  | A | どの項目も積極的に対応・推進ができた。<br>児童数が少なく対外的体育の大会への参加ができていく状況にも関わらず、児童のほぼ全員が、練習に参加し、大会に臨んでいる。                  | 「ノーテレビ・ノーゲームデー」や「早寝・早起き・朝ごはん」運動を家庭に呼びかけ、推進を図る。<br>安全指導や訓練等を通して危険予知能力を高める。<br>安全点検により危険箇所の改修・改善を図る。       | 「安全や事故防止に努めている」は、97.4%に達し保護者の評価を受けている。<br>訓練では、児童に予告なしで昼休み時に取り組んだり、取り組みの後の反省点を生かして計画を変更したりして安全指導の充実に努めることができた。危険箇所等の安全点検では、点検項目を具体的に記してチェックを行っている。                      |
|      | ○読書の推進           | 読書指導の充実                  | 「読書タイム」・「読み語り」の指導方法の工夫と充実を図る。<br>「ノーテレビ・ノーゲームデー」における親子読書（家読）の実施率を70%にする。    | B | 「読書タイム」・「読み語り」は昨年度より改善を行い充実下取り組みとなった。<br>家読推進を保護者に啓発はできたが実施率は低調であった。                                | 週3回の読書タイムと週1回の「読み語り」により、読書に親しませる。<br>「キラニコノート」の活用で「サン読み」の向上を図る。また、毎月「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実施状況を知らせ、家読の推進を啓発する。 | 朝の時間帯の読書は、教職員の評価もおおむね達成で全校一斉に静かな読書タイムが流れ児童の読書への姿勢も向上した。保護者の「読書への取り組みによって読書意欲を高めている」の評価も、92.3%と高い。<br>「読み語り、家読、サン読みへの読書意欲を高めようとしている」の保護者評価は92.3%で高いが、家読の実施率が低い。          |
|      | 情報モラルの徹底         | ・情報モラルやルール・マナー教育の推進      | 教員の情報モラルやルール・マナーを中心とした研修を行い、指導力の向上を図る。                                      | B | 家庭への情報モラルへの深まりのある啓発活動までは至っていない。<br>情報教育指導員の配置により、PC活用時のルール・マナーの徹底もできた。                              | 家庭でのインターネットや携帯電話の利用実態を把握し、それを元にして、学校が保護者と連携して携帯電話が持つ危険性など情報モラル教育を行う。<br>学期毎に学年に応じたPC活用マナーの指導を取り入れる。      | 高学年時に学級活動において情報モラルに関する指導を行っている。更に家庭との連携体制を強化していきたい。<br>情報教育指導員による指導が可能となり、低学年からのPC活用が盛んになってきた。早い時期からのルール・マナーの指導の徹底ができ、児童のPC技術も向上している。                                   |
|      | 食育等を通じた健康づくり     | ・「健やかな体」を育むための食育の推進      | 健康教育の現状と課題から食育の推進に努める。  | B | 朝・夕食の喫食率は、92.3%であるが、早寝・早起きの習慣が身につけていない児童が18.2%いる。<br>食育の授業は年1回は達成できた。                               | 年1回以上は各学級で「食」に関する授業を実施する。<br>生活実態調査をもとに「早寝・早起き、朝ごはん」の指導を行い、家庭にも協力を依頼する。                                  | 日常的に給食時に担当者による指導が徹底している。特に給食週間期間には「食」への掲示物・クイズ等の指導を行うと共に、学級でも食の授業に取り組んでいる。<br>「子どもへの食育を大切にしている」の保護者評価は74.4%で、更に家庭との連携を推進する必要性を感じている。                                    |
| 特定課題 | 小学校低学年の学習環境の改善充実 | ・基本的な生活習慣・学習習慣の育成、定着を図る。 | 「チャイムを守る・話をしっかり聞く」など生活習慣を身につけた児童90%を目指す。<br>「学習の準備ができる児童・宿題をしてくる児童」90%を目指す。 | B | どの項目も「おおむね達成」できてはいるが、90%までは至っていない。<br>朝の読書を取り入れたことにより、時間を守る習慣が改善できた。                                | チャイムを守る、話を聞く約束事を決め、定着を図る。<br>基本的な生活・学習習慣の育成のために、「キラニコノート」を活用し、日々の生活を振り返る。                                | 朝の読書が徐々に定着してきたことにより、落ち着いた静かな時間が創造できるようになり、基礎的・基本的な習慣もよくなってきている。<br>「キラニコノート」に教師が賞賛・励ましの手立てを取り、意欲の継続を図ることが必要である。   |
|      | 不登校の未然防止         | ・心の居場所づくりの場の創造           | 職員会等で児童の実態把握・情報収集に努める。<br>人間関係づくりや学校生活への適応に関する指導の充実を図る。                     | A | 生徒指導の職員連絡会において各学年の気になる子の情報交換ができた。<br>仲間づくりの強調月間として充実した3回の集会を実施することができた。                             | 生徒指導に関する集会等で気になる児童の情報交換を行い、全職員で対応する指導体制づくりを行う。<br>定期的にグループエンカウンターの手法を取り入れた集会活動や授業を行う。                    | 職員連絡会で気になる子の情報を全職員で共有し、早めの対処・対応を行ってきたため不登校や問題行動も無い。また毎週全校集団下校時に指導を行った。<br>集会だけに留まらずどの学年もグループエンカウンターの手法を取り入れた授業を展開することができた。  |
|      | 家庭教育力の向上         | ・保護者への啓発並びに育友会との連携       | 育友会と連携し研修会を通して、家庭教育力の推進を図る。   | B | 家庭教育力を高めるため「キラニコノート」の修正・改善を行うことはできたが、活用方法の検討が必要である。<br>川端 誠先生を迎えて「家読講演会」を実施した。町主催「家読研修会」への参加を呼びかけた。 | 保護者対象の家庭教育に関する教育講演会を開催し、保護者の啓発に努め、家読や家庭学習時間の増加を進める。<br>「伊万里っ子しぐさ」の中から重点指導項目を設定し、家庭と連携する。                 | 新型インフルエンザの影響もあり、育友会主催の教育講演会の開催ができず啓発が十分できなかった。ノーテレビ・ノーゲームデー時の「家読」の実施率も最高が12.7%でそれ以上の伸びが期待できなかった。<br>「伊万里っ子しぐさ」の取り組みが朝の会等での指導に留まった。発展的に「波多津東っ子しぐさ」の工夫も行的に家庭とつなぐことも必要に思う。 |

6 総合評価

保護者評価における「学校・学校経営に関する事項」は平均88.5%、「子どもの学習や生活習慣に関する事項」は89.0%、保護者自身に関する事項は87.9%を達成し、ほぼ90%に近づく評価となって昨年度よりも概ね良好であった。24項目中14項目が90%に達している。  
昨年度の課題であった「低学年の学習環境の改善充実」・「読書の推進」については、朝の時間の読書・音読・計算タイムを取り入れたことにより基本的な生活習慣への定着も波及効果としてよくなり、2学期後半より「学習の準備・宿題をする」の努力目標も概ね達成できるようになった。  
学校運営面では、それぞれの項目で概ね目標を達成できた。情報発信を心がけ、保護者の意見をくみ上げ取り組みの結果、授業等の参観率も向上させることができた。教育活動面・特定課題面では、教育講演会等での啓発活動や家庭との連携の強化について努力することが求められる。

7 来年度の改善策

家庭との連携に対して情報発信は十分にできたが、一方的な保護者への呼びかけに止まらず、育友会を通して理解を得るための話し合いの場や教育講演会の場を設定したい。特にノーテレビ・ノーゲームデーでの「家読」の実施率を高めるために育友会とも協力して普及に努めたい。  
教育効果を上げるには、教職員の資質向上が重要である。授業力を高めるための授業研究会を実施し、研修の充実を目指す。  
朝の行事における「読書・計算・スピーチタイム」の充実により、基礎基本の定着を図ることができたが、培ってきた力を授業にどのように生かし、つなげていくかが校内研究の課題である。